

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	クリエイティブサポートくら（児童発達支援）	公表日 2025年 2月 10日
------	-----------------------	------------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		1名では広すぎる環境の際にはパーティションなどで仕切るなどしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		視覚的にもわかりやすいよう絵や写真を用いた指示が出されている。文字への興味も促せるようにしている。	ピクトグラム等も今後は用いていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		週2～3回は床や壁、玩具類の消毒をしている。	自然と火山灰が入ってきたり、害虫が発生する時があるため、適宜確認が必要である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		仕切りがある机の準備、クールダウンする部屋の確保をしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		四半期に一度の振り返りを職員全体で行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		評価表の結果を職員に周知し、ミーティングを行い改善できるところを協議している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		都度職員間で意見交換を行える環境があり、遠慮なく意見が述べられている。	都度ではなく、スケジュール化できれば尚良い。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		内部研修や外部研修は案内を必ずし、勤務調整をしている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		毎月プログラムを保護者に配布。インスタとホームページでも毎月公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		保護者とは面談を行い、ニーズや課題については複数の職員で共有し多角的に分析して計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		個別支援計画作成前後には全職員での支援会議を実施し、共通理解ができるようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援計画は作成後に必ず共有しいつでも見れる環境にしている。定期的に支援の現場に児発管が入り確認をしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		支援後必要な場合には、汎化の場を設けるなどして適応行動のアセスメントを取れるようにしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		各項目ごとに支援目標を立て、より具体的な内容の個別支援計画になっているかの確認を支援会議にて行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		プログラムは保育士が中心となり作成のためのミーティングを行っている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		5領域ごとにプログラムの色分けをし固定化しないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		1名の利用児のため、集団活動などを組み合わせた時には、法人内の別事業所の利用児との活動を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		必ず、打合せは毎日行い、確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援終了後が難しかった時には翌日行うようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		翌日、週終わり、月終わりに記録は確認をし、検証改善のために、記録者への確認の場を設けている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		モニタリング時期は視覚化しており、漏れなくモニタリングと見直しができるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		児童発達支援管理責任者、担当保育士などで出席をしている。会議前にはこどもの事前に情報の漏れがないかの確認をしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		利用児が通う幼稚園をはじめ、行政や相談支援事業所との関係をしっかりと取り、支援が行える体制がある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		利用児の修学移行へ向けては、関係帰化との連携を密にし、情報共有に心がけている。	インクルージョンの推進においては、近隣の園との連携やこども館などの利用などについて不十分な所がある為、体制を整えていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		医療機関、行政、教育施設、他の療育施設と定期的に支援状況の確認ができるようにしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	4			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	4			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4		支援等に行き詰まりなどを感じた場合には相談ができている。また、連携もできている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4		園に通園できているため、日常で地域のこどもと活動できている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		療育場面に保護者にも参加していただく環境を作っており、現況をお伝えして共通理解ができるようにしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		療育場面に保護者にも参加していただく環境を作っている。保護者会にて、保護者参加の研修を行った。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		書面を使った丁寧な説明の時間を設けており、あらかじめ説明をする場合には時間がかかる事もお伝えしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		送迎の保護者へも、説明をしたい際には来所を促し、説明、同意、交付をしている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		説明の際には来所をお願いし、説明、同意、交付をしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		個別支援計画にも支援内容として取り入れており、悩みや不安には相談に応じている。送迎時にも相談に対応している。	lineやメールでの相談も増えてきているため、適切に対応していけるようにしていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者会では、先輩ママからのメッセージなどもしていただき、卒業後のイメージができるような取り組みを実施している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談や苦情については法人内のマニュアルに沿って対応ができるようにしている。苦情はなかった。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		月1回の広報誌、定期的なHPやSNSへの投稿などで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		職員間でも個人情報の取り扱いの大切さを伝えて、留意できている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		理解度などの確認をしながら、しっかり情報伝達ができているかの確認をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		七夕やハロウィンなど近隣企業への笹飾り配布などをし、地域との連携に心がけた。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		各種マニュアルは作成しており、安全計画については、年度のはじめや契約時にしっかり保護者へ説明をし、訓練の実施もしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCPを意識した避難訓練を実施。2次避難場所までの避難訓練を行った。	引き渡し訓練がまだできていないので、年度ないに実施する方向で計画している。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		定期通院の際に現況などを確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		保護者を通して指示をさせていただいて対応している。自宅から持ってくるお弁当なので、対応は保護者がメインとなっている。	外部のお弁当や、外食の際には都度確認をしていく必要がある。その日に利用するすべてのこどもへ確認をしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		戸外活動の際には必ず事前確認を行っている。鳥類の死骸などがある場合には活動は中止としている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		4月に安全計画の説明を行っている。引き渡し票も全利用児に提出していただき、災害時の連携について確認を行った。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットは事業所内で共有し、必ず再発防止に向けたミーティングを行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		年2回の研修と、3か月に1回のチェックリストを使った振り返りを実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		法人内での小委員会に年4回出席している。必要な場合には、個別支援計画への記載と保護者への説明をし、同意所を頂いている。	